

## 第 476 回 三水会便り (毎回 PM6:30~8:00)

令和元年 6 月

☆6月 19 日午後6時30分からルームで会員全体会議を開催

講演はありません。新生「三水会」をめざし、会員全体会議を開催します。ぜひ、ご出席ください。これまでお知らせしてきた通り、3~5月に、例会に出席した有志で再建策を話し合ってきました。その結果、従来のように会の運営をすべて代表・事務局長にお任せするのではなく、何人かの世話人を決めて、集団指導体制で業務を進めていくことを確認しました。具体的には7~8人の幹事を設け、総務、会計、山行、例会、企画、広報、監査などの分野を担当、それぞれの担当で協力会員の支援を得て、個別案件を討議・立案し実行していく。基本的な事項については幹事の全体会議で決める。それらが公平・円滑に実行できるよう会の規約を決める一などです。個別案件としては、例会の予告・報告を日本山岳会のHP、デジタルメディア委の連絡網などで周知します。6月19日の会員全体会議で了承を得たいと思います。会議の前日までは最終案を個々の会員に提示し意見をお伺いします。意見提示のない場合は了承いただいたものとみなします。

有志代表:川俣俊二、高橋重之

☆6月現地集会は「琵琶湖トレッキング」です。5日 10:45に北陸本線余呉駅に集合、賤ヶ岳トレッキングののち向源寺で国宝/十一面観音を拝観。京都・山科に宿泊し、6日は近江富士登山、7日は二手に分かれ桂離宮、修学院離宮を見学。参加14人、

係り/北口マリ子、高橋重之。

☆5月山行報告。21~22日、北信濃・斑尾山で行った。初日は、あいにく雨の中の出発になったが、午後からは上がる気配なので、いったん宿に入って昼食。予定を変更してブナの森と近くの希望湖へ。新緑が素晴らしかった。約2時間半のコース。翌日は快晴に恵まれた。万坂峠まで宿の車で。対斜面にもスキー場が開発されて意外に展望がよい。妙高と北信五岳の眺め。火打山、北アルプスの鹿島槍・五竜など。斑尾山は約2時間の頑張りで1,381mの頂上に。さらに進んで大明神岳へ。眼下に大きく野尻湖が広がる。槍・穂高も顔を見せての大展望を楽しむ。下りはスキー場斜面を。最後は宿に戻って富倉の蕎麦と地酒などで仕上げ。16:05飯山発の新幹線で帰宅の途に。参加11名。

係:増田達治

☆第 661 回例会は、5月17日(金)、明治大学名誉教授(地理学)小疇尚先生から「東ヨーロッパ・ハイマツの山歩き」の話を聞いた。1) 東欧には3000m以上の山はなく、氷河も日本で最近認定された剣・立山連峰のものより小さく、雪渓もほとんどないが、圏谷、U字谷などの氷河地形は見事で、その中に多くの氷河湖が分布しており、北海道よりやや高緯度に位置するため、森林限界が低く、広大なハイマツ群落と高山草地在り分布している。2) ハイマツは、アルプスを中心に分布の北限がズデーテン山脈、東限がトランシルバニア山脈、南限がロドピ山脈である。日本を含むユーラシア東北部のものが5葉なのに対し、ヨーロッパのも

のは2葉であるが、森林限界以上の斜面に匍匐して密生する生活形は全く同じで、東欧では周氷河平滑斜面や圏谷底に大群落をつくって分布している。3)2000年から10年余、ブルガリア、ルーマニア、ポーランド、スロバキア、モンテネグロなどの山地を歩き調査した。アルプスでは家畜を放牧するためにハイマツを焼き払って草地(アルプ、アルム)を造成してきたために、ハイマツの分布密度が疎らなのに対し、東欧は山が低くて岩礫の斜面が広いところでは草地に転用できずに大群落が残されている。日本の山頂を目指す山道と異なり、移牧のための石畳みの水平道が多くみられ格好のハイキング・コースになっている。第二次大戦を境に移牧が衰退して山上の放牧地が放置され、その荒廃を防ぐためと水源保全のためにハイマツの植樹する山も出て来ている一など興味深く感じた。参加者 21 名。

係:塩澤 厚

☆88年3月16日の第201回例会に出席して以来、30余年間、お世話になりました。有難うございました。深謝致しております。

塩澤 厚

東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会三水会

便り担当:小泉義彦、高橋重之(文責)